

町家ペンキ塗り替えボランティア活動 1997年および1998年 in HAKODATE

■ 1997年8月30日(土)、31日(日) ■



before



after



←左

(11) たこやきみっちゃん他：1907(明治40)年、弥生町6-14
 【塗り替えの配色】外壁下見板：濃いピンク色、窓枠・柱・軒持ち送り・飾りパネル・歯形飾り：白色の2色

■ 1998年8月29日(土)、30日(日) ■

→右



before



after



(12) 函館どっく株式会社-1：1924(大正13)年、弥生町7-10
 【塗り替えの配色】外壁下見板：灰みの青色、窓枠・柱等：白色の2色

(13) 函館どっく株式会社-2：1924(大正13)年、弥生町7-9
 【塗り替えの配色】外壁下見板：赤茶色、窓枠・柱等：白色の2色

(14) 函館どっく株式会社-3：1924(大正13)年、弥生町7-8
 【塗り替えの配色】外壁下見板：黄色、窓枠・柱等：白色の2色

●塗り替え対象物件の選定理由：昨年に引き続き「三軒効果町並改善」をめざし、洋風下見板張り町家が三軒並んで美しく家並みを形成しているところとして、弥生町周辺にエリアをしぼり、現地踏査をおこない、弥生町7番の窓見板治いの函館どっく株式会社・長屋建て3棟を対象物件として選んだ。

●塗り替える色の方針：①同じ切妻屋根が3軒並んで美しい家並みを形成していることを生かし、ペンキの色彩によって建物1軒1軒が個性を持ち、町並みとしては色彩によるリズム感が生まれるようなものとして考えた。②西部地区に住む子供たち約30人に、函館どっく株式会社3軒の白図に自由に色塗りをしてもらったところ、赤、青、緑、黄と色鮮やかな原色を大抵に使ったものが多かった。これを取り入れて、外壁に原色を配すること、また全体の調和、リズム感をつけるため窓枠・柱等を1色に統一することを方針とした。③3軒の中で最も山側に位置する坂の一番上の建物は、坂を登る際に背景となる函館山の緑に映える色として黄系の色を、逆に最も海側に位置する坂の一番下の建物は、坂を下る際に背景となる港の青の色に調和する色として青系の色を選んだ。中央に位置する建物は、青と黄に負けない個性を示す色として赤系の色とした。また、3軒の窓枠・柱等を統一して塗る色として、切妻屋根の三角形を最も美しく表現でき、黄、赤、青のどの原色にも調和する白色を選んだ。

【参加者】ペンキ塗りボランティア代表・糸巻 浩、岡本浩一（以上北海道大学大学院工学研究科建築計画学分野・修士課程1年）、高橋 毅、宮本千羽、松本 紗（以上北海道大学大学院工学研究科建築計画学分野・修士課程2年）、竹内朋子、柳澤 忠、矢野めぐみ（以上北海道大学工学部建築都市学科建築計画学分野・4年）、田中敬子（北海道大学大学院工学研究科建築計画学分野・研究生）、吉田昌夫（北海道大学工学部建築都市学科建築計画学分野・OB）、森下 潤（北海道大学大学院工学研究科建築計画学分野・助手）、石川あゆみ、海老子定志、大塚隆太郎、小田圭生、河原直哉、久保さやか、野島 遼、小林朝雄、佐藤 忠、佐藤貴樹、嶋田和樹、杉本陽子、鈴木直幸、酒川 彰子、沼ひかる、村上孝司、三村和子、飯賀 誠、宮原沙央里、水田とも、西本康浩、堀田大樹、藤田香織、船見晶嗣、松本 勝、三浦祥英、宮森俊典、矢野信樹、山村直子、横田友美、吉岡洋治（以上国語工芸専攻・1、3年）、北川誠一（元町倶楽部）、以上45名

【協力者】函館ドック製（建物所有者）、函館工業高校建築科教諭・古村富士夫（函館工業高校生のボランティア手配）、又十小坂建設（足場の手配）、日本ペイント製北海道・東北地区（ペンキ塗料の手配）、函館からトラスト事務局・関有崎十河内晶子（足場の交渉、女子学生の宿泊受け入れ）、ハケ等ペンキ用具の保管、軽トラック）、太田誠一（男子学生の宿泊受け入れ）、元町倶楽部・山本真也（対象物件の助言）

※以上敬称略